

[011] 言語文化論究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/5541>

出版情報：言語文化論究. 11, 2000-03-01. 九州大学言語文化部
バージョン：
権利関係：

退官教官研究業績表

有 村 隆 広

I. 著書

1. 新修ドイツ語辞典（共著） 同学社 1390頁 1972年
2. カフカとその文学（単著） 郁文堂 269頁 1985年
3. カフカと現代日本文学（編著） 同学社 397頁 1985年
4. アポロン独和辞典（共著） 同学社 1901頁 1994年
5. カフカと二十世紀ドイツ文学（編著） 同学社 446頁 1999年

II. 論文

1. 「カフカ „Der Prozess“ における罪の概念」かいろす 3号（1964, 昭和39）16-24頁
2. 「カフカ „Das Schloss“ について－認識者としてのKの限界と超越者としての城の概念」山口大学文学会誌, 15巻 2号（1964, 昭和39）54-66頁
3. 「カフカ „Das Schloss“ における Amalia 物語について」山口大学文学会誌, 16巻 1号（1965, 昭和40）17-31頁
4. 「カフカの描く主人公達－孤独の三部作」ドイツ文学35号（日本独文学会）（1965, 昭和40）24-36頁
5. 「„Das Schloss“ における Bürger-Episode について－Kと Bürger の出会い」山口大学文学会誌, 18巻 1号（1967, 昭和42）1-16頁
6. 「カフカの初期の作品－Beschreibung eines Kampfes より」山口大学文学会誌, 19巻 1号（1968, 昭和43）1-16頁
7. 「ある作品解釈－フランツ カフカの „Hochzeitsvorbereitung auf dem Lande“」山口大学文学会誌, 19巻 2号（1968, 昭和43）45-58頁
8. 「カフカ中期の作品－変身」独仏文学研究, 20号（九大独仏文学研究会）（1970, 昭和45）73-82頁
9. A) 「カフカとその作品－後期の作品 „Ein Hungerkünstler“ より」かいろす 9-10号（1972, 昭和47）9-23頁
B) 「Kafka und seine Dichtung- „Erstes Leid“ und „Ein Hungerkünstler“」独仏文学研究, 23号（1973, 昭和48）85-101頁
（注：B）はA）の翻訳を主体とする）
10. 「カフカ後期の作品 „Forschungen eines Hundes“－作品分析とモチーフ」ドイツ文学52号（日本独文学会）（1974, 昭和49）86-95頁

11. Kafkas zwei Aspekte-Die Fassung A und B der „Beschreibung eines Hundes“ 独
 仏文学研究26号 (1976, 昭和51) 86-116頁
12. 「カフカ文学の帰結－ „Der Bau“ を中心として」独仏文学27号 (1977, 昭和52) 189-
 216頁
13. 「フランツ カフカ：幻の作品「ある戦いの手記」研究始末記－草稿A, 草稿B, Brod
 版より－付録：広重とカフカ」かいろす15号 (1977, 昭和52) 29-42頁
14. 「作家への道－フランツ カフカ－ Das Urteil を中心として」独仏文学研究28号
 (1978, 昭和53) 89-110頁
15. 「文学発展の一段階としての Kafka の作品群－ „Das Urteil“, „Der Heizer“, „Die
 Verwandlung“」独仏文学研究29号 (単著) (1979, 昭和54) 113-158頁
16. 「カフカ文学における多層構造－ „Der Verschollene“ (Amerika) を中心として－」
 (単著) 独仏文学30号 (1980, 昭和55) 17-47頁
17. 「カフカ研究の展開」(カフカ特集「カフカ研究の問題点」より) (単著) かいろす18
 号 (1980, 昭和55) 180-199頁
18. 「カフカ文学における伝記的なものと非伝記的なもの－ „Der Prozess“ ならびにそ
 れ以前の作品から」(単著) 独仏文学研究31号 (1981, 昭和55) 69-96頁
19. 「カフカ文学にみられる伝記的要素－初期, 中期の作品より－」(単著) 独仏文学研
 究32号 (1982, 昭和57) 57-78頁
20. 「カフカと安部公房－「審判」と「壁－Sカルマ氏の犯罪」」(単著) かいろす21号
 (1983, 昭和58) 121-136頁
21. Kafkas Dichtung unter dem Einfluss des traditionellen Geistes der deutschen Lite-
 ratur－Kafkas „Der Prozess“ und Kleists „Michael Kohlhaas“ (単著) 独仏文学研
 究34号 (1984, 昭和59) 29-57頁
22. 「カフカとゲーテ－「ある戦いの記録」と「若きヴェルテルの悩み」より」(単著)
 ゲーテ年鑑27巻 (日本ゲーテ協会) (1985, 昭和60) 221-235頁
23. 「日本におけるカフカ受容」(単著) 西田越郎先生退官記念号「ドイツ文学・言語論
 集」(九大文学部) (1985, 昭和60年) 7-25頁
24. 「Einige Aspekte in Kafkas Dichtung－ aus japanischer Sicht」(単著) 独仏文学研
 究35号 (1985, 昭和60) 109-126頁
25. 「カフカ文学の転機－「流刑地にて」より」(単著) 独仏文学研究36号 (1986, 昭和61) 81-91頁
26. 「カフカの再出発－短編「田舎医者」より」(単著) 独仏文学研究37号 (1987, 昭和62) 215-
 238頁
27. 「自伝的テキストまたは文学的テキスト－カフカの「父への手紙り」」(単著) 九州
 ドイツ文学3号 (九州大学独文学会) (1989, 平成元年) 108-129頁
28. 「カフカ文学における反自然的なもの－ W. ヴォリンガーの「抽象衝動と感情移入」
 より」(単著) 言語文化論究1号 (1990, 平成2年) 15-30頁
29. 「カフカ文学の受容－マルティン・ヴァルザーの初期の作品」(単著) 比較文学33巻
 (日本比較文学会) (1990, 平成2) 49-60頁
30. 「アイヒンガーの初期の作品－カフカ文学との対比」(単著) 言語文化論究3号 (1992, 平
 成4) 11-23頁

31. 「カフカ文学の危機－1920年の作品」(単著) 独仏文学研究42号 (1992, 平成4) 167-184頁
32. 「安部公房の初期の作品(1)「名もなき夜のために」: リルケの影響－リルケ, ニーチェ, カフカー」(単著) 言語文化論究5号 (1994, 平成6) 23-36頁
33. 「「城」における伝記的背景－カフカとミレナ」(単著) 独仏文学研究45号 (1995, 平成7) 49-68頁
34. 「安部公房の初期の作品(2)「異端者の告発」: ニーチェの影響－リルケ, ニーチェ, カフカ」(単著) 言語文化論究6 (1995, 平成7) 93-104頁
35. A) 「安部公房の初期の作品(3)「終わりし道の標べに」: ドイツの文学・思想の影響－ハイデッガー, ニーチェ, リルケ, カフカー」(単著) 言語文化論究7号 (1996, 平成8) 47-61頁
 B) Der Einfluss der deutschen Literatur und Philosophie auf die Werke des japanischen Schriftstellers Kobo Abe (単著) かいろす34 (1996, 平成8) 44-57頁
 本論文は, 平成8年3月30日(国立京都国際会館)に開催された日独コロキウム「精神科学の意義について」で行った独文講演を加筆したものです。下記のホームページで, 要約を日本語, ドイツ語で読むことができます。(アレクサンダー・フォン・フンボルト財団主催)
<http://www.kclc.or.jp/humboldt/>
 なお, 本論文は, A)の日本語論文を基調としています。
36. 「二十世紀初頭のカフカ文学－ドイツ文学の伝統のなかから」(単著) 九州ドイツ文学10号(九州大学独文学会) (1996, 平成8) 47-62頁
37. 「安部文学の転機－カフカとの対比」(単著) 言語文化論究8号 (1997, 平成9) 189-200頁
38. 「カフカの長編小説「城」における官僚組織」(単著) 独仏文学研究47号 (1997, 平成9) 1-17頁
39. 「安部公房の最初の作品集「壁」－フランツ・カフカとルイス・キャロルの影響－」(単著) 言語文化論究9号 (1998, 平成10) 19-38頁
40. 「カフカの最後の作品「歌姫ヨゼフィーネ, またはねずみ族－文学することの限界」」(単著) 独仏文学研究48号 (1998, 平成10) 77-90頁
41. 「安部公房の小説「けものたちは故郷をめざす」－カフカ文学との対比」(単著) 言語文化論究10号 (1999, 平成11) 119-130頁

Ⅲ. 翻訳(ドイツ語訳)

1. „Der rote Kokon“ (安部公房:「赤い繭」)(単訳) Muse 5号(九大文学部) (1986, 昭和61) 65-69頁
2. „Alltag im Traum“ von Toshio Shimao(1) (島尾敏雄:「夢の中での日常」)(1) (大河内ロスヴィータとの共訳) 九州ドイツ文学1号(九大文学部) (1987, 昭和62) 15-24頁
3. „Alltag im Traum“ von Toshio Shimao(2) (島尾敏雄:「夢の中での日常」)(2) (大河内ロスヴィータとの共訳) 九州ドイツ文学2号 (1988, 昭和63) 19-32頁
4. „Auf einer fernen Insel“ von Toshio Shimao(1) (島尾敏雄:「島の果て」)(1) (大河内ロスヴィータとの共訳) かいろす27号 (1989, 平成1) 55-67頁

5. „Auf einer fernen Insel“ von Toshio Shimao(2) (島尾敏雄:「島の果て」)(2) (大河内ロスウィータとの共訳) かいろす28号 (1990, 平成2) 169-182号

IV. 書評, 報告, 解説

1. 解説:「独話辞典の紹介ー使い方」NHK ラジオドイツ語講座 (1979, 昭和54) 4月号
2. 報告:「今日の状況におけるカフカ研究の問題点」(シンポジウム報告) ドイツ文学64号 (日本独文学会) (1980, 昭和55) 184-185頁
3. 書評:「デイリーコンサイス独和辞典」日本独文学会, ドイツ語教育部会報22号 (1982, 昭和57) 53-54頁
4. 報告:「カフカと現代日本文学」(シンポジウム報告) ドイツ文学72号 (1984, 昭和59) 197-198頁
5. 解説:「カフカの生涯と作品(「変身」について)」新潮文庫 (新潮社) (1985, 昭和60) 101-121頁
6. 書評:坂内正(著)「カフカの「審判」, 「カフカの「城」, 「カフカの「アメリカ」(「失踪者」) ドイツ文学85号 (1990, 平成2) 180-183頁
7. 書評:池内紀(著)「カフカのかなたへ」ドイツ文学93号 (1994, 平成5) 149-152頁
8. 解説:「安部公房とドイツ文学」ベリひて37号 (日本ゲーテ協会) (1996, 平成8) 27-29頁
9. 書評:新田義之著「比較文学への誘い」比較文学41巻 (日本比較文学会) (1999, 平成11) 151-154頁

V. 教科書

1. 注釈書:「ボルヒエルト小品集」(中尾との共編) 同学社 (1970, 昭和45) 42頁
2. 「新編基本ドイツ文法」(西田, 本田との共著) 三修社 (1973, 昭和48) 103頁
3. 「文法, 会話, 現代ドイツ語読本」(フリューアウフとの共著) 同学社 (1977, 昭和52) 76頁
4. 注釈書:「さすらいーシュテファン・アンドレアス作」(単編) 三修社 (1979, 昭和54) 49頁
5. 「ドイツの大学にて」(フリューアウフとの共著) 同学社 (1979, 昭和54) 63頁
6. 「日本人のためのドイツ語」(八木との共著) 同学社 (1982, 昭和57) 100頁
7. 「ドイツ語文法読本ーラインの旅」(フリューアウフとの共著) 郁文堂 (1984, 昭和59) 103頁
8. 「現代ドイツ語」(ホフマンとの共著) 同学社 (1986, 昭和61) 78頁
9. 練習問題集:「ホフマンー有村, 現代ドイツ語演習」(ホフマンとの共著) 同学社 (1988, 昭和63) 58頁
10. 「新しいドイツ語」(ホフマンとの共著) 同学社 (1991, 平成3) 108頁
11. 注釈書「変身でできなかった男ーマルティン・ヴァルザー作」(単編) 白水社 (1991, 平成3) 52頁
12. 「ドイツ語は, 今」(ホフマンとの共著) 同学社 (1997, 平成9) 101頁